

第9号
No.9

平成28年11月1日発行

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所

T. I. M. E.

Tokyo Institute of Montessori Education

<http://montessori.or.jp/>

Chair Person Tamako Amano General Secretary Kazumi Aoki

理事長 天野珠子 事務局長 青木和美

Editors: Ph.D. Masako Ejima, Kazuko Hotta

編集委員 江島正子 堀田和子

〒112-0002

東京都文京区小石川2-17-41

富坂キリスト教センター2号館内

Tomisaka Christian Center 2

2-17-41 Koishikawa

Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel. 03-5805-6786

Fax. 03-5805-6787

巻頭言

モンテッソーリのコスミック教育における 人間の匿名性の善意

東京コース コース長 前之園 幸一郎



モンテッソーリの教育思想の大きな特色は彼女の宇宙的秩序に対する統一のヴィジョンにあるとされている。彼女の宇宙的ヴィジョンによると、われわれが住むこの世界は宇宙有機体であって人類もその有機体の一つの器官にすぎない。その視点から見れば地球上のすべての存在は相互に依存しながら全体として統一と調和に満ちた地球を構成している。われわれ人類の生命も他の被造物に大きく依存している。例えば海中の目に見えない微細な植物プランクトンが巨大な食物連鎖を支えている。そこにはプランクトンがオキアミに食べられそれをヒゲクジラが食べるという捕食の関係が見られる。そして、まさに人類もまたその連鎖の恩恵の上に生存している。すべての生命は連鎖しているのだ。

さらに自然界に目を転ずれば、そこには絶妙な相互依存の関係が見られる。蝶や蜜蜂は花から蜜を頂戴してそのお返しに受粉を手伝っている。鳥たちは木々の熟した木の実を食べて、そのお返しに移動できない植物のために遠く離れた場所で排泄によってその種まきを行っている。まるで相互に無意識の奉仕活動を行っているように見える。

人間社会の本質的な成り立ちについても、モンテッソーリによれば同様の相互依存の関係が見られる。例えばわれわれの日常的な衣食住の問題について見るなら、すべての人が例外なしに他者である誰かに依存して生きている。日本人が意識することなく口にするエビのほとんどはインドネシアやヴェトナムやアルゼンチンなどの漁師たちの手になるものだ。同時にまた、われわれ自身もそれぞれの労働を通じて世界中の見知らぬ他者への奉仕活動を行っている。モンテッソーリはこれを匿名性の善意と呼んだ。

しかしそうは言っても今日の現実の世界の状況は、不幸な事件が連発して誰の目にも分断と敵対が渦巻く混沌の状態にあるようにしか見えない。それに対してモンテッソーリは現代社会で日々生起する痛ましい現実の背後には、すでに人類社会の連帯、調和、統一そして利他主義が存在していることを指摘した。多くの大人は多様な価値観と対立するイデオロギーによる自国中心の教育によって知的な柔軟性も未来への感受性も失ってしまっている。だが子どもたちは異なる。彼らはコスミック教育を通じて自然界ならびに人間社会に厳然として存在し広く一般化している相互依存関係の姿を容易に吸収することができる。自発的な学習を通じて世界各地のどこかに住む誰かが自分たちのために働いてくれているとの自覚に至る子どもたちは、人類に対する尊敬、感謝、敬意の気持ちを自然に抱くように導かれるだろう。ここに平和への灯が点火される。

モンテッソーリの教育思想は今日さらに説得力を持ち続けている。「他者を思う心」に協調的世界像の起源を見ようとする議論（大橋 力）や人間を「貢献する人」「ホモ・コントリビューエンス（Homo contribuens）」としてとらえ直そうとする動きなどはモンテッソーリの思想的系譜に属するものと思われる。

第50回全国大会（創立50周年）のお知らせ

50回大会実行委員長 江島正子

日本モンテッソーリ協会（学会）が創立50周年を来年の2017年夏にむかえます。東京支部が準備し、東京モンテッソーリ教員養成コースが2日間のワークショップを担当します。スケジュールは以下のとおりです。

日時 2017年8月8日（火）～10日（木）
会場 都市センターホテル 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1
最寄駅 東京メトロ半蔵門線 永田町駅 9B 徒歩約5分
基調講演 養老孟司（東京大学名誉教授 脳科学者 解剖学者）
特別講演 リン・ローレンス（国際モンテッソーリ協会事務局長）
ワークショップ 東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コース
スカイプ（ジュディ・オライオン）記念講演 基礎講座 応用講座 研究発表
ラウンドテーブル シンポジウム パネル展 50周年祝賀会 総会



「学生さんと共に」

感覚教育担当 小川かおる

当コースに通われている学生さんは、殆どの方が教育関係の仕事に携わっており、また講師の私たちも同様です。それなので、日々忙しい中、職場の行事が近づいてくると心身ともに疲れ、こなす仕事の優先順位が危ぶまれることがあります。それでも学生さんは時間を割いて、ディプロマを取得するという目標に向かって沢山の苦勞を重ね、夜間のコースに通われてきたり、土曜コースで学ばれたりしております。もしかしたら、いま人生のうちで一番勉強なさっておられるのかもしれませんが、勉強は受動的ではありませんが、積極的に自分たちで練習をし、膨大なノート作成をしておられます。

私たち講師は、コースの学びが魅力あるものであるように学生さんの心によりそい、学生さんと共に子どもたちの幸せを願い、モンテッソーリ教育についてより一層の研鑽を積んでおります。

「モンテッソーリコースに学んで」

1年生 下田裕子

4月からコース始まり、前期が終了しました。入講する前に、先生方、先輩方に「ノート作りが大変！」ということを知り、自分にこなせるかどうかとても心配でしたが、卒業生や同じコースの皆さんのアドバイス、ご協力もあり、何とか前期を終えることができました。大学卒業以来、学びの場から離れていましたが、久しぶりにとても新鮮な気持ちで楽しく通うことができます。

私自身も、モンテッソーリ教育を取り入れた園の卒園生で、教材も子どもの頃に触った記憶があり、職場の園にもありますので、普段見慣れてはいたのですが、実際に自分が教材を使って教える側になると、「そういう目的があったのか」と授業では毎回たくさんの発見があります。そしてコースで習ったことを、園で実践してみると、子どもたちがとても楽しそうに、しかし真剣に行っていて、とてもうれしく思います。

「ルーメル通り」誕生

群馬医療福祉大学大学院教授 江島正子

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コースが上智大学の上智コースであった頃、30年間コース長を務められたクラウド・ルーメル先生の道路がドイツの故郷ケルン・ブルハイムに2016年4月に出来たと市役所から写真が送られてきました。ドイツのケルンへ旅行されたとき、中世のゴシック式の高いドームを見学すると同時に、「ルーメル通り」も見てきてください。

（道路標識 ブルハイム市提供 2016年4月29日）



平成 29 年 4 月 東京コースに土曜コース開講！ 東京モンテッソーリ教育研究所 理事長 天野珠子

当研究所附属教員養成コースでは、3年前より分室でのコースを開講して参りました。お陰様で戸塚分室受講生は本年3月、富坂の本コース生と合同で修了式に参加し、無事ディプロマを取得しました。皆さんとても熱心で前向きな姿勢に我々スタッフも圧倒されながらも指導する側の張り合いも感じる事が出来、充実した2年間でした。今年は、横浜金沢分室を開講して現在30数名の方が履修中です。またその噂を聞いて数か所の施設から自分の地域でも開講できないかという問い合わせがありました。しかし当コースは、上智コースからの流れで他コースのように専任の教員はおりません。皆、それぞれ自園での保育の傍らコースの指導に当たっております。これ以上範囲を広げることは自分たちの首を絞める結果となりかねないと思案の結果、では富坂のコースを従来の夜間コースと土曜コース（現在の分室方法）の2通りとすれば、派遣する園側も曜日を変えたり、振替を実施できたりとメリットがあるのではないか、と考え開講に踏み切りました。関係各位にはぜひモンテッソーリ関連施設や保育者の方々に宣伝をよろしくお願い申し上げます。詳細は募集要項をご覧ください。

特別講義

「椎の実子供の家の保育の紹介及び室内活動と屋外活動を結びつける試み」

2016年9月7日（水）18：00～ 講師：椎の実子供の家 園長 沖野由紀子先生



今年、三鷹市にある「椎の実子供の家」保育園の園長をしておられる沖野由紀子先生（上智コース卒19期生）の講義でした。プロジェクターを使いながら現在の園舎や保育の様子を説明していただきました。平和教育への取り組み、創設者鈴木平三郎先生の「幼児の躰でその一生が決まる」という理念を重んじ子どもの育成に取り組んでいらっしゃる事、視覚的に写真を使って情報を伝える取り組みなど興味深いお話でした。

恵まれた園の環境からアオゲラやツバメなど子どもたちに紹介する中で、もっと子ども達の活動につながらないかという事で、今年度のテーマを「鳥の観察」にされたそうです。園庭で鳥の声（ヒヨドリ・カラス・ウグイス）を聴いたり、農家に鶏の卵を見に行ったり、スズメの巣の観察や、メジロのヒナが落ちてきてしまい餌をあげたけれど死んでしまったり、子ども達が心を動かされ好奇心を持って活動する様子を紹介していただきました。講義のお話から大切なのは、子ども達の身近な所から子ども達が興味を持ち観察し深く考え世界を広げていけるように教師も意識を持つこと、また、全ての感覚を通して体感させてあげることであると思いました。保育の中で行っていることを参考になるのではと紹介してくださり充実した時間となりました。

言語担当講師 齊藤春美

第8回 実技研修会 報告

平成28年8月27日（土）10：00～16：00



上智・東京コースの卒業生を中心とした実技研修会も今回は「文化」の領域より「地理」分野の紹介です。オリンピックイヤーでタイムリーな企画のためたくさんの参加希望があり、37名の方が出席でした。担当は木村悦子先生と齊藤春美先生です。

プログラムは①青と白の地球儀から色付き地球儀の紹介②大陸別の世界地図と名称カード③はめこみ世界地図と国名カード④はめこみ日本地図の地方別と県名カードの紹介などがありました。コース在学中はじっくり学ぶ時間もなく、どのように展開していけばよいのか悩んで

いた方々には再度の提示や発展、応用の実際が紹介され、忘れていた事を思い出しながら、目からうるこの思いだったことでしょう。夏休み明け、それぞれの園ですぐに実践できる様にと、国旗のカード合わせの制作もあり楽しい研修会でした。

支援事業担当理事 千葉和恵

図書紹介

学校法人上智学院理事長 高祖敏明編
『ルーマル神父94年歳月アルバム集』
学苑社、2016年、276頁。

理論 文化講師 江島 正子



1960年代初期、わが国においてモンテッソーリ教育リバイバルが始まった最初から2011年までモンテッソーリ教育運動の最前線でご活躍なさり、東京コースと前身の上智コース・コース長であられたルーマル先生は沢山の資料や写真を残されました。その一部分から本誌が刊行されました。モンテッソーリ教育運動の芽生えの1964年の武市八十雄氏、塚本伊和男師、愛子会のSr. オイゲニア、松本尚子氏のグループ写真や、42年後にSr. オイゲニアと会談写真。上智モンテッソーリ教員養成コース(1971年)の教職員と学生さんとのグループ写真。保育所うめだ「子供の家」本館竣工式(1973年)や上智コース最後の卒業式(第34期生)、そして東京モンテッソーリ教育研究所設立祝賀会と東京コース第1期生入講式の写真等と、日本のモンテッソーリ教育の歴史を垣間見せてくれます。

(本書の希望者は東京コース事務局にご連絡ください。)

マリオ・モンテッソーリ著 深津高子編
『人間の傾向性とモンテッソーリ教育』
風鳴舎、161年、131頁、2,000円(税別)。



モンテッソーリ教育と言えば、「敏感期」「精神的胎児」「発達期の4段階」「ホルメ」「ムネメ(記憶素)」「ネブラエ(星雲)」「内的教師」等のモンテッソーリ教育の用語がありますが、「人間の傾向性」という用語はあまり使われていませんでした。多分、マリア・モンテッソーリというよりも息子のマリオ氏がその理念を具体化したからなのかも知れません。しかしマリオ氏は母親のマリアと常に行動を共にしました。彼はモンテッソーリ教育の最大の理解者です。今回、本書が和訳され、出版されたことは、この上なく素晴らしいことです。「人間とは何か?」を知るために役立つ1冊です。

平成29年度入講生募集のお知らせ

募集定員：夜間コース、土曜コース 各25名
出願期間：平成28年12月1日(木)～平成29年1月11日(水)
出願書類：願書・受験票(所定用紙・写真添付)
最終学校の卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料(15,000円)の振込み金受領書のコピー
選考日程：平成29年1月15日(日)午後1時集合
場所：富坂キリスト教センター
内容：小論文(レポート)・面接

※詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-5805-6786 Fax. 03-5805-6787
Email: info@montessori.or.jp

平成27年度研究所活動報告

1. 会員の動向(平成28年3月31日現在)
 - ①新規入会 正会員 個人 4名 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 なし 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人 23名
賛助会員 1団体(2口)
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 平成27年4月 第10期生 16名入講
平成28年3月 第9期生 30名修了
 - ②指導者支援事業 平成27年8月 第7回実践実技研修会開催、於 世田谷聖母幼稚園「数教育」
 - ③ホームページ等による広報事業
「モンテッソーリ教育」(学会誌)第47号に広告掲載、平成27年11月に「T.I.M.E.」第8号と当研究所及び附属教員養成コース設立10周年記念号を発行。ウェブサイトを通し、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、附属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。
<http://montessori.or.jp/>

以上
事務局長 青木和美

東京モンテッソーリ教育研究所 平成27年度収支決算

収入の部		単位:円
入会金	個人	80,000
	団体	0
会費収入	個人	230,000
	団体	10,000
事業収入	教員養成事業	14,404,123
	指導者支援事業	112,500
	広報事業	0
雑収入	受取利息	4,492
	雑収入	2,890
経常収入合計		14,844,005
支出の部		
事業費	教員養成事業	9,307,378
	指導者支援事業	97,756
	広報事業	177,295
管理費	人件費	261,003
	外注委託費	1,440,000
	会議費	53,864
	旅費交通費	18,060
	通信運搬費	132,587
	消耗什器備品費	19,861
	消耗品費	57,584
	修繕費	0
	光熱水費	30,351
	賃借料	303,456
	租税公課	400
	雑費	134,074
経常支出合計		12,031,969
当期収支差額		2,812,036
前期繰越収支差額		22,742,354
次期繰越収支差額		25,554,390

平成28年4月26日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

編集後記

グローバルな世界状況の中、東京モンテッソーリ教員養成コースもどんどん進化を遂げています。富坂の本拠地以外にも、分校が2年前にでき、来年からは土曜日コースが開講されます。世の中は、待機児童の数が上昇する一方です。幼児教育の先生の高い質が要求され、東京モンテッソーリ教員養成コースはこれからももっともっと活動が求められることでしょう。(江島正子)